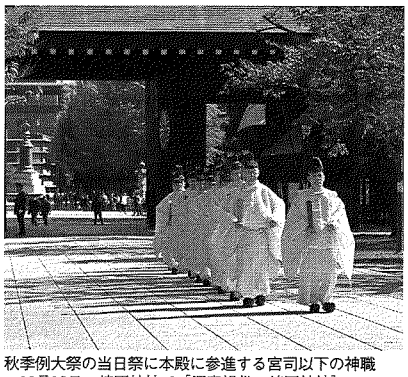
靖国神社 秋季例大祭を斎行

全国から遺族、崇敬者参列

靖国神社で、10月17日から19日までの3日間、秋季例大祭が斎行された。18日の当日祭には全国から戦没者遺族や崇敬者らが参列し、天皇陛下の勅使参向のもと、246万6千余柱の御祭神を慰霊顕彰する諸祭儀が厳かに執り行われた。19日には「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」が参拝した。

靖国神社で10月17日から19日までの3日間、秋季例大祭が斎行された。秋季例大祭は春季例大祭と並ぶ同神社で最も重要な祭典で、期間中、清祓、当日祭、第二日祭、直会の諸儀が執り行われた。

初日の17日午後3時には、祭典に先立ち神職や祭儀に用いる諸具を祓い清める「清祓」が行われた。



秋季例大祭の当日祭に本殿に参進する宮司以下の神職＝10月18日、靖国神社で［写真提供：靖国神社］

18日の当日祭には、全国から集まった戦没者遺族や戦友、崇敬者のほか、各界の代表者らが多数参列した。

午前10時から本殿で祭典が営まれ、宮司以下の神職が御饌神酒や海の幸、山の幸などの神饌を供え、雅楽の演奏の中、祝詞を奏上して御祭神を慰めるとともに、国の平和と繁栄を祈念した。その後、天皇陛下のお遣いである勅使が参向し、御幣物が奉られるとともに御祭文が奏上された。

19日には第二日祭が執り行われ、午後6時からの直会をもって3日間にわたる例大祭の諸祭儀が締めくくられた。

例大祭に合わせた奉祝行事として、10月4日に裏千家による献茶式、10月12日に小笠原流による草鹿式が行われた他、例大祭期間中には特別献華展や各種奉納芸能が催された。

奉納菊花展は10月26日から11月8日まで開催された。

自由民主党をはじめとする国会議員（本人71人［名簿2面掲載］、代理39人）が参拝し、戦没者のみたまに哀悼の誠を捧げた。

参拝後に記者会見した逢沢会長は、「戦後80年余りを経て戦争を直接知る世代が少なくなる中、戦争の悲惨さや平和の尊さを次の世代へ語り継ぐことが私たちの使命だ」と述べ、更に日本遺族会が進める「平和の語り部事業」に触れ、議員の会としても支援を続けたいとの考えを示した。また、靖国神社は英霊顕彰と慰霊の中心的な存在であるとして、その歴史や存在意義について「多くの国民に素直な気持ちで、歴史的事実に向き合っていただけるよう願っている。」と国民の理解が深まることへの期待を述べた。

閣僚では井林辰憲国土交通大臣、笹川博義環境大臣が同日参拝した。城内実成長戦略担当相も例大祭初日の17日に参拝しており、例大祭期間中に3閣僚が参拝した。

また、自由民主党の梶山弘志総務会長、西村康稔選挙対策委員長、小林鷹之政務調査会長も例大祭期間中に参拝した。梶山総務会長は高市早苗自民党総裁の代理として私費による玉串料を奉納した。

高市総理は例大祭期間中の参拝を見送ったものの、17日に「内閣総理大臣 高市早苗」名で真榊を奉納した。また、森英介衆議院議長、関口昌一参議院議長、上野賢一郎厚生労働大臣が真榊を奉納した。



昇殿参拝後、記者会見する逢沢会長＝10月19日、靖国神社で

靖国神社 秋季例大祭にあわせ

国会議員110人が参拝

超党派の「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」（会長・逢沢一郎衆院議員）は10月19日、靖国神社の秋季例大祭に合わせて集団参拝した。



逢沢一郎会長を先頭に昇殿参拝する「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」＝10月19日、靖国神社で

水落会長が財務省を訪問

主計局次長と面会

9年度予算獲得を強く要望

9月30日、水落敏栄本会会長は、財務省で新たに就任した八幡道典主計局次長、片山健太郎、寺﨑瑞枝両主計官と面会した。

水落会長は、平和の語り部事業をはじめとする戦没者遺族の処遇改善に関する要望に対するこれまでの財務省の理解に謝意を伝えた。

また、令和9年度政府予算に増額計上された平和の語り部事業2．8億円に含まれている後継者の育成、事務局の強化、国際親善交流の充実等について説明し、予算獲得を強く要望した。

八幡主計局次長は、語り部講話が学校教育の場で高く評価されていることを踏まえ、「要望に応えられるように、厚生労働省ともしっかりと協議していきたい」と述べた。

声なき声

「わしはシベリアから帰還したんじゃ」とバスで隣の老人が突然話しかけてきた。40年以上前の高校生の時だった。一方的にシベリアでの抑留生活の話をしていたが、授業で詳しく習っていなかったからか、あまり興味が持てずにぼんやりと聞いていた。それでも、シャツの襟にびっしりとシラミが張り付いていた話と老人の鋭い眼光は鮮明に覚えている▼シベリア抑留が極寒の地で苛酷な労働を強いられ、劣悪な衛生環境と食糧不足の収容所生活であったことを知ったのはずいぶん後になってからだ▼日本遺族会に奉職して、ご遺族と初めてシベリアの地を訪れたのは平成21年だった。日本人墓地、収容所跡地での慰霊祭で「異国の丘」を唱いながら、あの時の老人のことを思い出していた。きっと自身が体験したシベリア抑留の真実を若い世代に懸命に伝えようとしていたと思うと、真剣に耳を傾けなかった当時の自分を恥ずかしく思った▼教科書に載っていない体験者の記憶がどれだけ貴重であるかを実感し、そして今なら、身体中にシラミが湧いて、血を吸われてもどうしようもできない耐え難い苦痛を少しは想像できる▼ロシアのウクライナ侵攻以来、遺骨収集、慰霊巡拝は中断されたままである。日本政府の働きかけによる一日も早い再開が待たれる。（S）

日本遺族通信

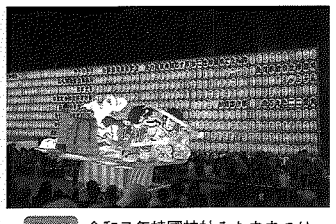
令和8年11月15日
第911号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0073 東京都千代田区九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階
電話 03－3261－5521
振替 00160-6-25389
編集発行人 亜井 一致
毎月1回15日発行
定価 1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

令和9年版
「靖國」カレンダーを
家庭にかかげましょう

●申し込み方法
維持会費一口七〇〇円（送料別途）
①「英霊にこたえる会 靖國カレンダー業務室」
〒一〇二―〇〇七三
東京都千代田区九段北三―一―一
靖國神社遊就館内
電話〇三―三二六四―四六一〇
FAX〇三―三二六一―七四一五
E-mail:eirei@deluxe.ocn.ne.jp
HP:https://www.eireinikotaerukai.com
②別途申込書で、お住まいの「英霊にこたえる会都道府県本部」宛。
部数は、一部（一口）から取り扱っております。送料は一部三〇〇円、二部三五〇円、三部以上は「都道府県本部」または「靖國カレンダー業務室」にお問い合わせ下さい。



7-8月 令和7年靖國神社みたままつり（毎年7月13日～16日）

英霊の御心を
次の世代に
伝えましょう

●振込先
維持会費は、左記宛に送金願います。
郵便局 郵便振替
口座番号 〇〇一六〇―二―七〇四三一
口座名 英霊にこたえる会 靖國カレンダー業務室

webサイト
X公式アカウント

千鳥ヶ淵戦没者墓苑

奉仕会主催の秋季慰霊祭

常陸宮妃華子殿下がご臨席

常陸宮妃華子殿下をお迎えし、千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会主催の「令和8年度千鳥ヶ淵戦没者墓苑秋季慰霊祭」が10月19日、東京都千代田区の千鳥ヶ淵戦没者墓苑で営まれた。遺族や戦友会関係者をはじめ、国会議員、各国大使館、自衛隊関係者ら617人が参列し、先の大戦の全戦没者に哀悼の誠を捧げた。

式典は常陸宮妃華子殿下のご臨席のもと、午後1時に始まり、保松秀次郎奉仕会理事長の開式の辞に続き、海上自衛隊東京音楽隊の奏楽による国歌斉唱が行われた。その後、陸・海・空自衛隊参列部隊の敬礼動作に合わせて参列者全員が黙とうを捧げ、戦没者を追悼した。

続いて表千家の近藤佐季子氏による献茶の儀が行われ、新藤義孝奉仕会会長が式辞を述べた。奉納行事では、吉永龍奏氏による昭和天皇御製奉詠、竹内一香氏と山村龍雲氏による上皇陛下御製奉詠が行われたほか、音羽ゆりかご会の子どもたち14人が「里の秋」「いつかえる」「故郷」を奉唱した。

高市早苗内閣総理大臣の追悼の辞は尾崎正直内閣官房副長官が代読し、戦没者への哀悼の意を表するとともに、未帰還遺骨の帰還に向けた取り組みを進め、戦争の記憶と教訓を次世代へ継承していく決意が示された。

その後、常陸宮妃華子殿下が墓前に進まれ拝礼され、参列者もこれに合わせて拝礼した。式典の最後には、新藤会長、内閣総理大臣代理、日本遺族会会長、都府県遺族会および戦友会代表、来賓らが献花を行い、慰霊祭を締めくくった。式典終了後には参列者による焼香も行われた。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑には、先の大戦で海外などで戦没し、身元が判明しないなどの理由で遺族に遺骨を引き渡すことができなかった戦没者の遺骨が納められている。令和8年5月の拝礼式で新たに193柱が納骨され、現在の奉安遺骨数は37万1167柱となった。


納骨されたご遺骨に拝礼する常陸宮妃華子殿下＝10月19日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で


納骨堂に献花する水落敏栄日本遺族会会長＝10月19日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑で

みんなで靖国参拝 衆・参国会議員名簿

10月19日に「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」で参拝した71人の衆・参議員は次のとおり。

（党派別、敬称略）

議員本人

▼衆議院

【自由民主党】逢沢一郎、青山繁晴、青山周平、東国幹、石井拓、石川昭政、石原正敬、井林辰憲、岩田和親、上野宏史、小里泰弘、大西洋平、川崎ひでと、鹿嶋祐介、門寛子、加藤勝信、加藤竜祥、川松真一朗、木村次郎、今洋佑、新谷正義、鈴木英敬、鈴木淳司、高鳥修一、高橋祐介、田中良生、棚橋泰文、辻清人、とかしきなおみ、中山泰秀、中川こういち、長澤興祐、中谷真一、**中野英幸**、西田昭二、**西山尚利**、平沼正二郎、星野剛士、堀内詔子、宮内秀樹、宮下一郎、三ツ林裕巳、森原紀代子、吉田真次、若林健太、渡辺博道、渡辺勝幸

【日本維新の会】東徹、一谷勇一郎、原山大亮、三木圭恵、横田光弘

【国民民主党】高沢一基、向山好一、村岡敏英

【参政党】石川勝、工藤聖子、鈴木美香、吉川里奈、和田政宗

【無所属】河村たかし

▼参議院

【自由民主党】江島潔、鈴木宗男、中曽根弘文、松村祥史、山谷えり子

【日本維新の会】青島健太、石平

【参政党】梅村みずほ、神谷宗幣、松田学

（太文字は拡大一心会）

ヤップ島 ミャンマー を調査

建立者等の訪問途絶える

海外民間建立慰霊碑

ヤップ島（調査事業）

9月15日から20日にかけて、ミクロネシア連邦ヤップ州に建立されている慰霊碑の現況調査を実施した。今回の調査では、対象となった11基の慰霊碑について、その存在の有無を確認、建立及び管理状況、現地行政や地権者等の意向を調査した。

前回調査から約20年が経過していたが、11基全ての慰霊碑の現存を確認することができた。一方で、いずれの慰霊碑についても関係者の訪問は既に10年以上途絶え、連絡が取れない状況となっていた。

各慰霊碑の管理状況は、経年による劣化は見受けられるものの、地権者による清掃等が行われており、現在の場所での維持を希望しているものが6基あった。また、建立に協力した管理者が高齢となり維持管理が困難な状況にあるが、現状維持を希望している慰霊碑が1基確認された。

一方で、建立当時の地権者が既に他界しているなどの事情から、将来的な移設を検討する必要がある慰霊碑が4基あり、このうち2基は、終戦後に武装解除されて現地に残留した部隊の将兵が、昭和20年から21年にかけて戦死した兵士を慰霊するために建立したものであった。近年の土地開発の進展により、現在の場所での存続が難しくなる可能性があるため、今後、ヤップ州政府や地権者等と協議を重ね、必要に応じて移設に向けた検討を進めていく予定である。

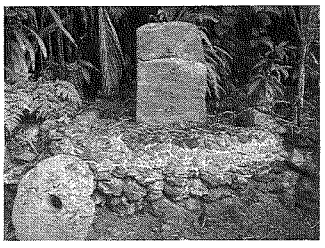
ミャンマー（調査事業）

10月4日から12日の期間で、水落敏栄本会会長（他事務局1人）がミャンマーのマンダレー、メークテーラ、ペグー、ヤンゴンに建立されている慰霊碑72基を調査した。

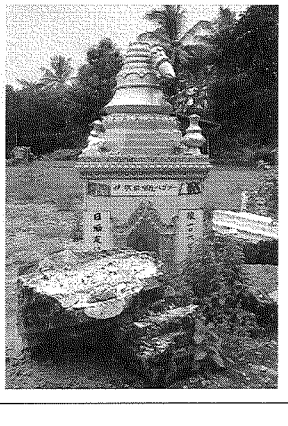
ミャンマーの国内情勢が不安定なため、日本大使館の許可を得て、安全が確保されている地域でのみ調査を実施した。

メークテーラで、昨年3月に発生したマンダレー大地震の影響で一部倒壊した慰霊碑を確認し、経年劣化等により倒壊又は撤去されていた慰霊碑も数基あったが、その他多くは僧院内に建立されており、これらの慰霊碑は僧侶によって適切に管理されていた。しかし、ほぼすべての慰霊碑で既に建立者と連絡が途絶え、コロナ禍以降、遺族等が慰霊に訪れることも激減していることが分かった。

今後も治安状況について現地の情報を収集し、入域が可能な範囲での調査を予定している。


昭和20年8月に江藤大八大佐により建立された石碑＝9月16日、ヤップ島で


昭和20年11月3日に海軍田中部隊田中隊により建立された石碑＝9月18日、ヤップ島で


マンダレー大地震の影響で一部倒壊した慰霊碑＝10月6日、メークテーラで

遺骨収集・現地調査

東部ニューギニア等を相次いで実施

推進協会

日本戦没者遺骨収集推進協会は9月から10月にかけて、海外の旧戦域で現地調査および遺骨収集派遣を相次いで実施した。本会からは3地域に3派遣、延べ4人が参加し各地域での遺骨収集活動に従事した。

ミャンマー現地調査派遣第2次は、9月26日～10月4日9日間、マンダレー地域メイクテーラ地区カンダン村、キンテ村、ピヨペ地区ミヤ村、キャウセ地区キャウセ駅構内で実施、収容なし。

東部ニューギニア現地調査・遺骨収集派遣第3次は、10月3日～10月21日19日間、マダン州ボギア地区ゴリンゴルで実施。25柱相当の遺骨収容、DNA鑑定用検体採取。

パラオ諸島現地調査派遣第5次・遺骨収集第2次派遣は、10月7日～10月22日16日間、ペリリュー島の集団埋葬地（埋葬者数1086人）で実施。25柱相当の遺骨収容、DNA鑑定用検体採取。


30柱相当を収骨したゴリンゴル村の現場で拝礼する派遣団＝10月12日、東部ニューギニアで

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報は「個人情報保護法」の定めに則り、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

平和の語り部研修会

第1・第5ブロックで開催

地域の課題、次年度計画を協議

平和の語り部事業を共通議題とし、地域の慰霊、追悼などの課題を協議するブロック語り部研修会を続報する。本部は本会創立80周年となる次年度の事業計画を説明。今年度は全国で2500回を目指し、学校、学童、追悼式、自治体等の協力を得た企画で重ねられた各地の取組みを踏まえた次世代の育成の方途を提案。真剣な議論が交わされた様子を伝えたい。

○第1B（北海道東北10月1日）北海道で開催。

特記事項　次世代育成と広報を意識した各地の取組。体験者と次世代複数人で講話（北海道）、追悼式での広報（全支部：講話・次世代メッセージ、献花補助等）。体験者と次世代が共に研修、実践（全支部）。郷土研究会と協力し、遺構視察と講話（宮城県）。慰霊碑の清掃、探求学習（青森県、秋田県）、記憶継承動画の制作、動画を活用した講話（秋田県、福島県、山形県）

開催県会長で議長を務めた伊東良孝元沖縄・北方大臣は、戦争体験者が減少し、北方領土の歴史も知らない世代が増える。記憶継承は遺族会の責務。道庁の尽力に感謝し、今後も活動を重ねようと挨拶。道福祉局長は、記憶継承の重要性を示唆し、遺族会へ尽力を求めた。甘竹勝郎本会常務理事（岩手県会長）は、各地の取組みを確認し良い刺激に。難しい取組みだが必ず次世代へ継承しようと締め括った。

○第5B（九州沖縄10月14日）沖縄県で開催。

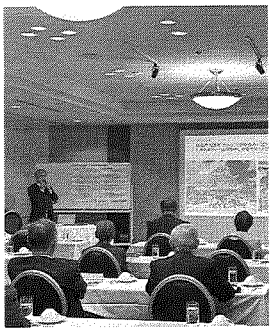
特記事項　自治体の理解を得た事業展開。学生を巻き込んだ企画（佐賀県）、体験者・次世代の研修（全支部）、朗読劇の展開（大分県、熊本県）、慰霊碑、壕での体験型（熊本県、鹿児島県、沖縄県親子で壕視察、慰霊祭参列）追悼式関連企画、（福岡県語り部、全支部次世代参列）、動画制作（宮崎県）。他団体での講話（福岡県、佐賀県、鹿児島県）

幹事県山下裕子本会常務理事（長崎県会長）は組織運営、語り部事業、時期を得た研修と評価。開催県沖縄県からは、講話の最後に披露する「いのちのリレー」他、伝統民謡の活用も提案された。

全体意見　戦没者の慰霊の重要性を共有する機会として追悼式における一般、学生参列者を増やすこと。講話、対話や清掃体験や探求学習を受け入れ、記憶継承を担う遺族会の社会的意義を高め、次世代継承を加速し、組織存続に尽力することが確認された。



開催県会長として記憶継承の重要性を示唆する伊東良孝元沖縄・北方大臣＝10月1日、札幌市で


慰霊友好親善事業の体験から平和の尊さを伝える網走市遺族会増永賢尚会長＝10月1日、札幌市で

平和の語り部

ブロック語り部大会

北海道と沖縄で開催

○第1B（10月2日）　増永賢尚網走市会長が慰霊友好親善の講話。10年前に会長に就任。親父が知りたいと事業に参加。北島での慰霊に涙。現地の学生も凄惨な歴史を知らない。あと10年、懸命に伝えたい決意を語った。

笠原幸子秋田県女性部長。父はバシー海峡で戦没。母を助けるため働きながら学校へ。戦後35年、中国政府が引き揚げた阿波丸から父の遺品（木札）が見つかり家族で号泣。二度と戦争遺児を出さないために記憶を伝えようと訴えた。

山岸正昭山形県青年部長が青年部で制作した動画を説明。予科練、兄の戦死、仙台空襲の体験等をインタビュー形式で。現職教員の孫や映像制作を学ぶ孫と協力。自身の遺骨収集体験も加え、次世代の覚悟を語った。

安齋満本会副会長（福島県会長）は講話者に敬意。聴講者にあわせた内容で伝える努力を重ねようと締めくくった。


戦時下の八重山地域のマラリア被害を親子で伝える大山三幸八重山女性部長＝10月15日、那覇市で

○第5B（10月15日）　大山三幸八重山女性部長が戦時下の八重山のマラリア被害を講話。昨春親子（遺児、孫）で研修に参加。今夏地元高校で初講話。地域の歴史を伝えたいと語った。

瀬長和枝沖縄県女性部長が学校講話のポイントを説明。戦時下の壕、捕虜収容所での生活を伝える。県内では親子で壕の視察や慰霊祭参列の研修を重ねる。「命どぅ宝」を伝えたいと語った。

宮本文貴熊本県事務局長が市内で食堂を営んだ祖父母、叔父から聞いた戦中戦後を講話。熊本大空襲、長崎原爆を見た母の記憶。自身も傷痍軍人が街角に立つ記憶を持つ。戦後世代として学生に伝えたいと語った。

中川五見長崎県会員。硫黄島で祖父が戦死。幼少期祖母から硫黄島の写真を見せられその後慰霊へ。地元紙掲載記事から山下会長に声を掛けられ青年部へ入会。頂いた縁を大切に魂を伝えたい。

山下一夫佐賀県副会長。戦争では勝敗に係りなく命が失われると伝える。先の大戦を知らない生徒が増えている今こそ、二度と若者を戦場へ送らないために人生をかけて語り部に尽力すると語った。

西田富子アドバイザー（佐賀県会長）は「其々の講話に胸を打たれた。研修を重ね次世代に記憶を継承しよう」と締めくくった。

ミャンマー小学校

募金の範囲内で修繕

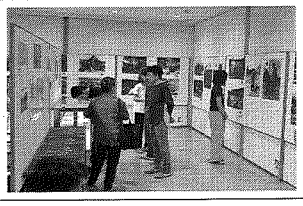
要望踏まえ有効な活用検討

日本遺族会は、平成11年度から3カ年計画で、ミャンマーに建設、寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、修繕募金を集めている。

約400万円の募金が寄せられているが、世界的な物価高や軍事政権下にあることが影響して、ミャンマー国内の資材、人件費が高騰しており、校舎の大幅修繕は困難な状況にある。

本会は現在、寄せられた募金の範囲内で修繕したいことを学校側に申し入れており、学校側への聞き取りでは、一部の教室の窓ガラス、屋根の修復、小規模な教室の増築等の要望があった。

今後は要望に沿った形で修繕等を行えるよう準備し、最大限有効な募金の活用に努める。


「沖縄戦」をテーマにした企画展で写真、証言映像を視察する来場者＝8月、徳島県戦没者記念館で

平和の語り部

記憶継承写真パネル展

徳島県と群馬県で開催

記憶継承の形態の一つ、写真パネル展を紹介する。

○徳島県8月1日～16日　戦没者記念館で「沖縄戦の記録（記憶）」と題した特別企画展を開催。戦没者の遺影、遺品等を展示し記憶継承を願い建設された記念館では、見学した学生への語り部、定期講話会が開催される記憶継承の拠点となっている。また夏にはテーマを変えた企画展を開催。今年で20回を迎えた。

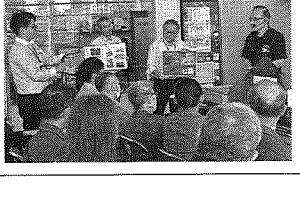
沖縄の本土復帰から50年を記念し、沖縄戦の記録（記憶）を写真、資料で展示、映像を視聴することで、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えようとするもの。沖縄県平和祈念資料館から提供された約50点も展示。期間中には約1,200人が来場。

○群馬県10月14日～19日　高崎市役所中2階ロビーで戦争の記憶「次世代継承」パネル展を開催。期間中約650人が来場。当時の写真をAI技術でカラー化し展示する企画は令和4年より開始。高崎市役所を会場としたのは令和6年から。大本営であった群馬県庁、小学校の授業風景などがカラー化により鮮明に蘇る。パネルの解説、語り部講話、紙芝居、映像視聴など複合的な企画により多角的な楽みが。

解説を担当したのは貴重な写真を提供した斎藤健司氏。2歳で父が戦死。約二十年前、雑誌に掲載された堤ケ丘飛行場の95式練習機の写真の持ち主を探し、訪ね、交流を重ね写真を譲り受けた。同時期に描き始めた父と戦争をテーマにした絵画も展示。昨年洋上慰霊に参加。父への思いを初めて語り部として伝えた。

この他、特攻隊として亡くなられた小川清海軍大尉の遺品にまつわる秘話から高崎市遺族の会青年部が制作した紙芝居「奇跡の時計」を上演。上演後、遺品等による説明が行われた。知覧特攻平和会館から県ゆかりの資料を展示。趣向を凝らした企画運営を担った県遺族会、高崎市事務局、青年部の熱意を称えたい。

両展示とも地元紙に報道され大きな反響を得た。各地の模索は続く。


紙芝居後、小川清大尉の遺品を通し背景を伝える高崎市遺族の会青年部＝10月17日、高崎市で

ミャンマー小学校

修繕募金のお礼

本会がミャンマーに寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、その修繕費用にご賛同いただいた左記の方に心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略）

イノクラキヨシゲ、マエダタカ（以上、10月1日から10月末日まで）

本会は引き続き現地と連絡を取り合い、修繕の準備を進めます。

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申しあげます。

賛同者名（敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等）

ピタットハウス稲田堤店、竹島潤、稲木実（以上）10月1日から10月末日まで）

賛助金は、本会が実施する英霊顕彰、遺族の処遇改善、遺骨収集事業等の活動に利用させていただいています。

なお、賛同者の都道府県名については、送金方法により居住地が特定できない場合があるため、省略します。

昭和館

昭和100年記念写真展を開催

「記憶をつなぐ東京の建物たち」

東京都の九段下にある昭和館では「記憶をつなぐ 東京の建物たち」と題して、昭和に建てられた東京都心の建物を紹介する写真展が開催されている。会場の2階ひろばのリニューアルに合わせ、今回から展示方法も一新された。これまでとは一味違う雰囲気の中で写真が楽しめる。会期は令和9年2月28日（日）まで。

昭和館の2階ひろばでは、写真展「記憶をつなぐ東京の建物たち」が開催されている。今年は昭和元年から起算して満100年を迎える。これを記念して企画されたもので、昭和初期から40年代後半にかけての館蔵写真40点が展示されている。

関東大震災や戦中の空襲で、東京は壊滅的な被害を受けた。その後の復興の過程で、建物の再建や保存が重ねられ、東京の街が形作られてきた。

本展は、歴史的建造物や有名建築だけでなく、オフィスビル、劇場や商業施設といった、人々の記憶にある身近な建物にもスポットを当てている。



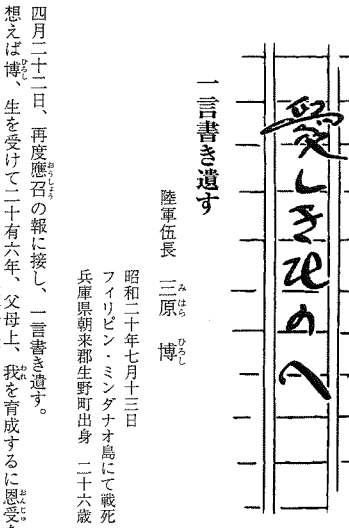
写真展「記憶をつなぐ東京の建物たち」の会場風景＝10月、「昭和館2階ひろば」で

展示は、関東大震災と東京大空襲の犠牲者を合祀する東京都慰霊堂の写真から始まり、戦前から戦中の写真には、二・二六事件の舞台となった九段会館や空襲直後の東武鉄道浅草駅ビルなどが含まれている。

戦後、昭和20年代は帝国ホテルや第一生命館など、GHQに接収された建物を中心に紹介する。30年代から40年代にかけては、ネオンきらめく三愛ドリームセンターや、39年の東京オリンピックを機に建設された日本武道館と駒沢公園、さらに当時日本一の高さを誇った霞が関ビルディング、新宿副都心の超高層ビル群などが、激動の昭和を経て変貌を遂げた東京の姿を伝えている。

（写真展問い合わせ先・昭和館図書情報部03―3222―2574）

一言書き遺す



陸軍伍長　三原　博

昭和二十年七月十三日
フィリピン・ミンダナオ島にて戦死
兵庫県朝来郡生野町出身　二十六歳

四月二十二日、再度應召の報に接し、一言書き遺す。

想えば博、生を受けて二十有六年、父母上、我を育成するに恩愛をもつてし、暑さにつけ寒きにつけ我を愛護激勵し、以つて我の今日あるを爲す。この恩この愛、筆文にては表し得ず。只々頭をたれて感謝あるのみ。しかるに我未だ父母上をして安するのすべ無くして今日に至る。只慚愧あるのみ。

しかるに我再度應召の機會に惠まれ、勇躍征途に上らんとす。武人の名譽これに過ぐる無し。もとより生還を期せず。

幸にして良き死所を得んか。莞爾として散り、以つて父母上の恩に報ぜんのみ。（中略）

父母上様、たとへ我戰場に散るとも、我に続くに龍雄あり、武司、倬、富美子あり。何ら憂るに足らず。もつて我の意のある所を察せられ、末々長命せられ、以つて天命を完せられん事を藤ながら祈り居ります。再び記す。我無き後、龍雄、武司、倬、富美子、誰にてもよし。後にのこる者、父母様をよろしく頼む。

若し靖國の御社に相曾せんか、笑つて我をむかへられん事を祈る。

【令和八年十一月靖国神社社頭掲示】
愛しきものへ

九段短歌

作品をお寄せください。

選者　村田　信昌

「父さーん」と呼べばこだまは揺れながら消えて応えず熱帯雨林
戦争はすべて悲しき事なれど対馬丸の児童守れず虚し
記憶にない父に会ひたる心地して遺影を前に散華の日偲ぶ
故郷に還れぬ祖父に「ふるさと」を涙に歌ひ洋上に贈る
秋祭り太鼓の響く草のみち自転車降りて父と歩めり

千葉県　齋藤　康代
福島県　柴田　征子
千葉県　石橋　嘉子
千葉県　田中　恭子
青森県　雨森　貴子
山梨県　土屋　喜雄

なつかしい故郷の景色ながめつつ祥月命日父の墓参る
三百万余の若き命が犠牲となる追悼式に平和を尊ぶ

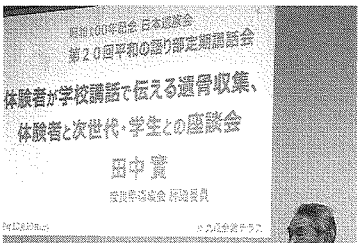
滋賀県
長崎県　安原　恭子

◇

過日テレビの報道番組において「今年は台風の当たり年ですね」という表現が使われておりましたが、「当たり年」の本来の意味は農作物等の収穫が多く幸運に恵まれた年を指すものですのでちょっと驚いてしまいました。ともあれ今年の台風の大発生は日本の亜熱帯化への前兆なのでしょうか。今月のお歌に「父さーん」と呼べばこだまは揺れながら…」とありました。

父親へ、呼び掛けた、か細い声がこだまはず熱帯雨林へ吸い込まれてゆく様が目に浮かぶ表現力豊かなお歌でした。

（選者）



遺骨収集の体験から平和の尊さを学校で伝える奈良県遺族会評議員田中實氏＝10月10日、九段会館テラスで

第20回定期講話会
学校で伝える遺骨収集
10年に亘り講話続ける

10月10日の第20回定期講話会は「体験者が学校講話で伝える遺骨収集」。講話者は奈良県遺族会評議員田中實氏。記憶継承に取組む大学教授の新聞記事に共感し、訪ねたことがきっかけで、体験講話を勧められ、以来約10年に亘り県内外の小学校で講話。ミャンマーで父が戦死。戦後母は薪拾いや農作業の手伝いを掛け持ち。生活の苦しさから心中を考えたこともあったと聞いた。年々父への慕情が募り、昭和52年遺骨収集団に遺児代表として参加。派遣団で一緒になった戦友に強烈な違和感を覚えたが、現地の焼骨式で平伏し人目をはばからず詫びる姿に自責の念を感じ考えが変わった。帰国の途上、機上から見た川が父の戦没地シッタン河と教えられ号泣。遺骨約五千六百柱を胸に抱き日本へ。

母も昭和54年に慰霊巡拝へ。サガインヒルの慰霊塔に刻まれた夫の名前に号泣。その後田中氏も妻と慰霊巡拝に。その際の追悼文を読み上げ、戦争を起こさないためにまずは周りの人に思いやりをもってと伝えた。

田中氏の講話に協力する宇陀市遺族会松岡晃氏は「日本一の講話者」と称え、自身と姉一家総勢10名で応援に駆け付け、「記憶継承はまずは家族から」と伝えた。

座談会の意見、小学生に遺骨収集はいつまでと問われ困惑（体験者）。国が責任を持って最後の一人まで（多数）。事業周知の広報SNSを使って。机上では分からない。次世代も遺骨収集、慰霊体験を（次世代）。今まで機会がなかったが講話会に参加したい（初参加の小学生2人、中学生）関東近県に加え、香川県、岐阜県から青年部が参加。

次回は1月9日体験者の講話を予定。

全国で講話者育成の研修会
三重県と神奈川県で

講話依頼が急増する中、全国で講話者育成の研修が行われている。

○三重県10月4日

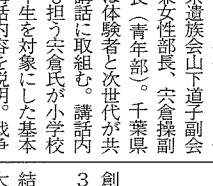
県主催で戦没者遺族の思いと記憶の次世代継承を考える研修会を開催。本会より荒堀修一ブロックアドバイザーを派遣。地元兵庫県加西市制作の平和学習教材「机のない教室」で戦中の児童の暮らし、同市鶉野飛行場から飛び立った特攻隊員の遺書等から地域の歴史から戦争と平和を伝える。記憶継承は一部の人ではなく、全員で と訴えた。

意見交換会では、若い世代の参加しやすい企画、SNSの活用、体験証言のアーカイブ化等多様な意見が。戦没者遺族の記憶を社会の共有財産とし、平和学習を地域全体で支える体制整備が必要。本会の語り部事業を推進することが期待され、まずは遺族から語り継ぐことが確認された。

○神奈川県10月8日

女性部上京研修会。昭和館視察、九段会館テラスで講話研修。講師は千葉県遺族会山下道子副会長兼女性部長、宍倉操副会長（青年部）。千葉県では体験者と次世代が共に講話に取組む。講話内容も担う宍倉氏が小学校6年生を対象にした基本的講話内容を説明。戦争が始まり生活がどう変わったのか。国民学校での教育、学童疎開、勤労動員や食料事情。地域の歴史として千葉空襲を子供たちの目線から。山下氏は空襲を体験した木更津女子高校の生徒の日記を朗読。臨場感に包まれた。本部は写真や動画を使った講話資料の制作、九段会館テラスの歴史を紹介。

締めの挨拶で大沢洋子副部長は「具体的なお話を聞いて私でも話せるかもという気持ちになれた。次世代と協力し、女性部として取組みたい」と決意を伝えた。歴史的建造物である九段会館を見学し帰途に着いた。



実物「軍事郵便」を見せながら基本的講話内容を説明する千葉県遺族会山下女性部長、宍倉副会長（次世代）＝10月8日、九段会館テラスで

地方だより

▼山口県　9月26日　創立80周年記念式典（230人）

▼新潟県　10月1日　結成80周年記念慰霊遺族大会（130人）

▼富山県　10月8日　令和8年度「合掌の塔」慰霊祭（24人）